かちまいスポーツ

国体スケート・アイスホッケー

【釧路】第65回国民体育大会スケート競技会・アイスホッケー競技会・くしろサッポロ氷雪国体（日本体育協会など主催）競技第4日は30日午前、柳町スピードスケート場などで各種競技を行った。スピードの少年女子1500㍍は高木菜那（帯南商高2年）が2分9秒16で初優勝、髙橋菜那（白樺学園高1年）も2分9秒24で準優勝を果たした。29日のスピードスケート少年女子500㍍決勝は、神谷衣理那（白樺学園高3年）が42秒10で2年ぶりの優勝を飾り、準優勝の押切美沙紀（駒大苫小牧高2年―中札内中出）とともに北海道勢で上位を占めた。成年男子同は小林正暢（北海道・ムトウ―明大、白樺学園高出）が準優勝、富岡幸弘（同・明大4年―白樺学園高出）は3位、優勝は上條有司（長野）。成年女子同は仁科有加那（長野・日本電産サンキョー―帯南商高出）が準優勝し、優勝の清水玲香（長野）と長野勢で上位を占めた。石田誌保（岐阜・十六銀行―山梨学院大、池田高出）は3位だった。少年男子同の長谷川翼（白樺学園高1年）は4位。アイスホッケーは成年男子の北海道が長野を破り4強入り、荒木貴智（苫小牧駒澤大―白樺学園高出）が2ゴールを挙げた。（髙橋宏幸）

【少年女子1500㍍決勝】2人で先頭を引っ張りワン・ツーフィニッシュを果たした北海道の高木菜那（手前）と髙橋菜那

高木 帯南商高2年 髙橋 白樺学園高1年 ワンツー

少年女子1500

スピード

高木 ラストで逆転

アイスホッケー 成年北海道4強入り

2人の『菜那』粘りの滑り

○…少年女子1500㍍は2人の『菜那』がワン・ツーフィニッシュ。序盤から先頭に立ちレースを引っ張った高木菜那と髙橋菜那の2人が、最後の1周で前に出てきた森加菜美（青森）を抜き返し、接戦をものにした。2人は「最初から狙っていたので良かった」と安堵（あんど）していた。

スタート順のくじ引きでは髙橋が1番、高木はくしくも〝7番〟。スタートからうまく前に出て先行するところまでは予定通りのレースだったが、「疲れがたまっていた」（髙橋）と後続を引き離せず、終盤は思わぬデッドヒートに。それでも「ここで抜かれちゃだめかな」（高木）と粘りの滑りで競り合いを制した。高木は「足にきていたけど追いついて良かった。北海道のチームとして作戦を考えながら滑れて楽しかった」と喜んでいた。

神谷（白樺学園高3年）少年女子500制す

【少年女子500㍍決勝】後半に猛追を見せて優勝した神谷衣理那（左の白の帽子）。右の茶色の帽子は準優勝の押切美沙紀

インターハイの雪辱果たす快走

全日本ジュニアに弾み

神谷衣理那に笑顔が戻った。少年女子500㍍決勝、後半に驚異的な追い上げを見せた神谷が、独走状態だった押切美沙紀とほぼ同時にフィニッシュし北海道勢でワン・ツー。不発に終わったインターハイから1週間、インターハイと同じ釧路で頂点に立ち雪辱を果たした。

決勝は厳しい戦いだった。やり直しの判定となったものの1度目のスタートでは転倒。2度目のスタートも両隣の選手のマークが厳しくなかなか前に出られなかった。しかし、最初のコーナーで前の集団をつかまえるとバックストレートで猛烈に巻き返し、最終コーナーを回ったときには2位に浮上。ホームストレートでも猛追の勢いは止まらず、最後はトップをひた走っていた押切までも追い抜いた。「全力出し切りました。（インターハイで）悔しい気持ちもあったので、良かったです。うれしかった」。笑顔がひときわ輝いていた。

「緊張や去年（500㍍、1000㍍で2冠）のプレッシャーもあった」と苦戦したインターハイはまさかの無冠。1000㍍は表彰台に上がれず、リレーでもバトンを落としてしまい「泣いてばっかりでした」と明かす。だが、落ち込んでばかりもいられず、悔しさを胸に直線の氷の押し方など滑りの修正を急いだ。直後の大会で結果が出たのは好材料。来月の全日本ジュニアを前に自信を取り戻す意味のある優勝だった。「（全日本ジュニアへ）いいきっかけになった。自信をなくさないでこのまま頑張りたい」と神谷。大一番に弾みがつきほっとした様子だった。

少年女子500㍍でワン・ツーフィニッシュを飾り笑顔を見せる神谷衣理那と押切美沙紀（右から）

小林 成年500 準優勝

女子の仁科も2位

北海道勢としてそろって表彰台に上がった準優勝の小林正暢と3位の富岡幸弘（左から）

次世代に伝わる滑りに全力を　小林

○…成年男子500㍍の小林正暢は、最後の直線で上條有司（長野・日本電産サンキョー）を猛追したが及ばず準優勝。それでも、富岡幸弘とともに表彰台に上がり「北海道的には万々歳。トミ（富岡）もよく3番手に入った」と納得していた。

レースは昨年末の五輪選考会以来。選考会は万全の準備を整えていながら、本番2日前に突如右足の内側側副靱帯（じんたい）が痛み出し、当日は痛み止めを飲みながらのレースに。本調子で臨めず結果も出せなかったが「ケガはあったけど、それまでの準備は最高のものができた。残念な結果だけど納得して大会を終われた」と小林。できる限りのことは尽くした。

今後については「今のところ未定。今は人生の大きなターニングポイントとなる時期なので、いろいろなことを踏まえて現役を続けるか続けないか考えたい」とじっくりと結論を出すつもり。「下の子たちに見せられるものもある。いろんなものを1人の人間として受け継いでほしい」と次世代に伝わる滑りに向け全力を尽くすのみだ。

来年は世界で戦う

成年男子500㍍3位の富岡幸弘の話　北海道で2位、3位なので結果は良かった。スローペースだったので足が保った。卒業後も競技は続けるつもり。来年は世界で戦っていけるように、今季の残りで反省点を見つけ、直していきたい。

名門の意地で長野に貢献　仁科

○…成年女子500㍍は清水玲香（日体大）と仁科有加那の長野勢が1、2位を独占。仁科は途中までは本人の思惑通りのレース展開で「長野でワン・ツーなのでほっとした。みんな喜んでいて良かった」とうなずいた。

名門・日本電産サンキョーのワンピースを着る以上、「中途半端なレースはできない」という意地がある。1000㍍決勝に出る長野勢は仁科一人。「最低でも表彰台に乗って長野に貢献したい」と意欲を新たにしていた。

レース展開に迷い

成年女子500㍍3位の石田誌保の話　ひと言で言うと悔しいという言葉しかない。攻めていくと決めていたのに、レース展開に迷いの心が出てしまった。今季の残りは課題にしっかり取り組んで来季につなげたい。

【成年女子500㍍決勝】準優勝を果たした仁科有加那（緑の帽子）。青い帽子は3位の石田誌保（岐阜）

アイスホッケー

◇少年男子▽準々決勝
宮城 22－4 香川
埼玉 7－3 東京
▽順位決定戦▼1回戦
長野 4－3 神奈川

◇成年男子▽準々決勝
東京 15－1 香川
東京 8－4 神奈川
埼玉 3－0 兵庫
青森 7－1 大阪
北海道 9（2－1 2－0 5－0）1 長野
▽順位決定戦▼1回戦
神奈川 6－3 兵庫
長野 8－1 大阪

▼夜12時まで営業!!
街の花屋さん
市内西1南10 5番館ビル ☎24-8783

チャレンジカップが開幕

アイスホッケー

アイスホッケーの帯広社会人強化チャレンジカップ（帯広アイスホッケー連盟主催）が29日、帯広の森アイスアリーナで開幕した。Aプールに Bプール1部のNHK杯、勝毎杯の優勝チームなどを加えた10チームが出場。トーナメントで優勝を争う。初日は1回戦、2回戦の各1試合を行い、福原、御影クラブOBが勝利した。2月9日まで。

◇1回戦
福原 11（4－3 2－2 5－1）6 帯広畜産大

▽得点者【福】①道言→金山（1P5分23秒）②中田学（1P6分28秒）③小林（1P11分10秒）④西尾（1P11分55秒）⑤中田学→西尾（1P12分7秒）⑥森本衛→西尾→森本芳（2P10分15秒）⑦小林→中田淳→金山（2P12分32秒）⑧道言（3P1分38秒）⑨森本衛（3P3分37秒）⑩西尾→中田学（3P6分33秒）⑪神前→中田淳→小林（3P11分50秒）【帯】①今啓→廣川（1P15秒）②廣川→今啓（2P4分23秒）③西園→廣川（2P14分8秒）④三宅→廣川（3P1分16秒）⑤廣川（3P2分29秒）⑥川村→太田→廣川（3P13分3秒）▽反則【福】7（西尾2、伊藤2、道言、森本芳、神前）【帯】3（今啓、西園、廣川）▽シュート数【福】37（13、14、10）【帯】40（13、14、13）▽審判＝村瀬、竹原、水戸部

◇2回戦
御影クラブOB 6（0－2 1－1 4－2 GWS 1－0）5 タダノCRANES

▽得点者【御】①梅森→小井戸→土橋（2P5分27秒）②谷真→梅森（3P1分11秒）③谷尚→小井戸（3P5分14秒）④谷尚（3P7分44秒）⑤川端→谷尚→梅森（3P14分33秒）GWS＝梅森【タ】①下保→木村（1P11分23秒）②大河内→池田→浅岡（1P12分15秒）③浅岡→大河内→池田（2P3分10秒）④浅岡→石井→池田（3P8分27秒）⑤中村泰→北原（3P13分48秒）▽反則【御】0【タ】1（北原）▽シュート数【御】33（6、11、15、1）【タ】30（14、9、7、0）▽審判＝村瀬、宿院、沼澤

精鋭の熱戦火ぶた

全国中学スケートが開幕

北海道代表として入場行進する旗手の後藤卓也（左、駒場3年）と代表選手の桜井萌美（右、同）

【長野】第30回全国中学校スケート大会の開会式が30日正午から、長野市のエムウェーブで開かれた。

十勝からスピード77人、フィギュアに5人が出場。地元中学生の吹奏楽演奏の中、北海道選手団は、計145人を代表して桜井萌美（駒場3年）と旗手の後藤卓也（同3年）の2人が行進。前回の学校男子覇者の更別中央・石原龍平（2年）が優勝杯を返還し、日本中体連の三辻陽夫専務理事が「自分自身の栄光を目指して頑張ってほしい」と選手を激励。選手を代表して地元長野の小平渓介（塩尻広陵3年）と飯島美幸（佐久臼田）が「長野オリンピックの舞台で最後まで滑り抜くことを誓います」と宣誓した。31日から31都道府県604人の精鋭が〝日本一〟を目指してしのぎを削る。（岡部彰広、塩原真）

記録の速報は▼kachimai.mobi
Eメール▼sports@kachimai.co.jp
写真がほしい▼℡0120-25-9410
ファクス▼0155-25-2700